

関大で学んだのは 「やり抜く」マインド。 自分のチャレンジが、 将来をつくっていく。

株式会社empheal (エンフィール)
代表取締役社長

西口 孝広さん

工学部電気工学科 1999年卒



ヘルスリテラシーが、働く人の幸福度を上げる

私は現在エンフィールという会社で働いています。この会社はNTTドコモのグループ企業で、ドコモからの出向という形で代表をしています。ドコモでは長く通信インフラの業務に携わってきたのですが、新規事業の一環としてヘルスケアに関わるようになり、その事業を加速させていく観点で、新たな子会社を設立し代表に就任することになりました。

ヘルスケアという点でお話すると、健康は、「与えられるものではなく、自分で守っていくこと」が必要なのです。しかしこの認識は、わかっているようで行動できないことですね。皆さんわかっているけど食べ過ぎや運動不足など、あると思うんですね。

私たちは健康を守る大事なポイントとして、いかにリテラシーを高めていけるかということにチャレンジしています。機器を使った数値の管理ではなく、どうすれば健康への意識を向上させていけるのか。そういう観点で、社員向けの研修や健康教育などの施策を通じて、その大切さに気づいていただく仕掛けを作っている段階です。

そのために「ヘルスリテラシー」という尺度を設けました。ツールも開発して、皆さんのリテラシーがどれだけ上がっているかを確認しています。そして正しい知識をもち、具体的な行動につながるように働きかけていきたいと思っています。

たとえば先進国におけるBMI*18.5未満の女性の割合を見ると、日本の女性は「やせている」ではなく「やせすぎ」が圧倒的に多く、20代だけなら21%にも達します。するとエストロゲンという女性ホルモンの分泌が悪くなり、月経不順や将来の不妊リスク、また骨ももろくなるなど、女性にとってはリスクの大きいことなのですが、多くの方がこのリスクを認識できていません。

*BMI (Body Mass Index) は、体重を身長²で割って算出される肥満度を表す体格指数

また、最近ある先生と研究していたのが、社員の幸福度が上がるメカニズムです。そのために個人と職場環境という2つの軸でスコアをとったんですね。まず個人では、たとえば健康診断で再検査となったとき、ちゃんと受けているか。つまり知識が行動に結びついているかということです。そして職場の事業主が、再検査にちゃんと行くように勧めるかどうかで行動が変わってくる。調べてみると、職場が社員の健康を意識してくれるポジティブな環境であるほど、社員の幸福度は上がりやすいんです。

こういった情報を企業の方々に知ってもらうことも、私たちエンフィールの役割だと思っています。

文系も理系も同じキャンパスで4年間——自分にとって理想の環境だった

大学受験では関関同立を目指していたのですが、工学部があり、文系学部も一緒にキャンパスってというのは関大だけだったんですね。理系に進みたいけど、その世界どっぷりはイヤだと思って関大を目指しました。文系と理系が同じ場所で4年間過ごせる大学って、実はあまりないんです。それで3年生から死ぬ気で勉強を始めて合格！高校

の成績が悪かったので、先生も驚く奇跡の合格でした。

工学部では、電気工学を専攻しました。物理とか電気が好きだったのですが、1年目が終わるとまったく勉強しなくなり、成績もどん底でした。1回生の時からテニスサークルに入っていたのですが、2回

生から授業よりもテニスになってしまいました。3回生でもテニス一色でした。SLTC関西大学公式テニス同好会というサークルで、相当ガチなサークルでした。本当に練習が厳しかったですよ。

その後、4回生で研究室に入って取り組んだのがニューラルネットワークでした。人工知能をプログラミングしている判断させるとい研究ですが、非常に面白くて。大学でいちばん本気で勉強したのは、それですね。元々先輩から受け継がれたプログラムがあったのですが、当時はプログラムを書いたこともなく、眺めていてもよくわからない。だったら、と思って図書館で本を探しまくって、プログラムを最初から書き始めたんです。引き継いだものをベースに改良だけしているより、視野が全然変わってきました。

大学生活で得たものは、負けない、へこたれない、やり抜くというマインドですね。まず関大なんて行けるわけがない、とバカにされながらも、絶対入りたいとやり抜きました。テニスにしても、本当にきつかったんですよ。未経験者だったから成績は大したことありません

仕事の意味は、世の中で将来の役に立つこと。それを追い求めたい

就職活動を始めたのは、3回生の終わりくらいから。高校時代にバンドをやっていた電気関係も好きだし、音響メーカーに行きたかったのですが、ことごとく落ちてしまいました。もうひとつ面白いと思っていたのが通信工学で、たまたま応募していて、唯一残ったのがドコモでした。みなさんあまり信じてもらえませんが、私が就職活動をしているときは、まだドコモは人気企業じゃなかったんですよ。私がドコモから内定をもらったのが1998年の夏。その秋にドコモ株上場、翌年1999年2月にiモードが生まれ、そこからドコモは人気企業になっていくんですね。私の学年までがラッキーでしたね。

ドコモ入社後の最初の仕事は、基地局の設置業務でした。今に比べれば、まだまだ通信エリアは十分でなく、車で通信エリアが悪いところを探して、基地局を作る。こうやって基地局インフラを増やしていきました。ユーザーの方々に選んでもらうには、「一番つながるドコモ」じゃないといけない、という思いをもって

学生に言えること——失敗や困難との出会いは、財産でしかない

ここまでの話にも通じますが、今の学生さんにお伝えしたいのは何にでもチャレンジしたほうがいいということです。失敗は若いうちのほうがいい。思い切って困難に直面することで、自分自身が磨かれます。それはその後の長い人生のプラスとなるので、財産でしかない。なんていうか、中途半端な姿勢は良くない。やるなら、沼に埋まる覚悟で両足で突っ込んでいく。ちょっと片足突っ込むだけでは、本当に

あなたにとって関西大学とは？

自分の人生を変えてくれたというか、大きな転機になった場所ですね。特に、サークルの友達との関係は今もしっかり続いているんですよ。他学部との交流があることでテニスに打ち込むこともすごく楽し

が、負けたくないから頑張る。研究もいい成果を出したいと頑張りました。これだと思ったことに対して、いかに熱量をもってチャレンジし続けられるか。それが養われた学生時代だと思っています。会社に入った今も、一番の財産ですね。



仕事をしていました。

今取り組んでいるヘルスケア業界では、大きく成功したヘルスケアベンチャーなんて、ほぼ無いのではと言われるぐらい難しい業界です。大げさなことを言うつもりはないのですが、健康の概念を変えた、というところにいければ、僕としてはうれしい。「エンフィールと関わって健康に対する見方が変わった」と言ってくれる企業さんが一社でも増えればと思って活動をしています。

私は、社会の役に立ててこそ仕事だと思っています。お金をもらうというのは、誰かの役に立てたからです。今、取り組んでいるヘルスケアという分野は、今の世代だけでなく次の世代の社会にも役に立てる可能性がある魅力的な仕事です。せっかく携わったヘルスケアという仕事で、子どもたちの世代に何かを残せるようにしたいというのが、私の目標です。

大事な経験や成果は得られないと、強く実感しています。

座右の銘というか僕自身の言葉ですが、「扉は開けてみないとわからない」——扉を開けて初めて次の世界が見える。ああそうか、とわかったから次の扉が出現するんです。扉を開けない限り、前には進めないですよ。リスクを恐れて、扉の前で評論語っていてもだめです。前に進む気持ちを持ち続けることが大事です。

かったし、得たものも多い。自分の情熱や根性は、そこで鍛えられたと思います。関西大学だから、それができたんだろうと考えると、自分を大きく成長させてくれた大学だと思えますね。だから、関大で大学生活を過ごせたことは、本当に感謝です。



関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671
<https://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式 website



公式 Facebook



公式 Twitter



LINE スタンプ



LINE スタンプ
(関大ライブ編)